

カトリック八尾教会ニュース 2023年9月



【今月の予定】

ミサの時間

Tháng chín

1日(金) すべて ^{まも} のいのちを守るための月間(～10/4日まで)※献金袋 ^{けんきんぶくろ} を配布、ご利用ください。	
3日(日) 年間第22主日	7:00
↳被造物 ^{ひぞうぶつ} を大切に ^{たいせつ} にする世界祈願日 ^{せかいきがんび}	10:00
10日(日) 年間第23主日	7:00
	10:00
14日(木) 十字架 ^{じゅうじかしょうさん} 称賛	10:00
16日(土) 初聖体勉強会 ^{はつせいたいべんきょうかい}	14:00
17日(日) 年間第24主日	7:00
	10:00
ベトナム語 ^こ のミサ	15:00
23日(土) 病者・障がい者 ^{びょうしゃ しやう} とともに歩むミサ(14:00) 教区行事(カテドラルにて)	14:00
24日(日) 年間第25主日	7:00
↳世界難民移住移動者 ^{せかいなんみんいじゅういどうしや} の日(献金)	10:00
【平日のミサ】 木曜日	10:00
	7日、14日、21日、28日

(故ジャック バン.アッセ神父様2013.9.1) 追悼

ミサ後、聖体賛美式
八尾教会

敬老の祝福



<新教区設立と新教区長任命のお知らせ>

2023年8月16日

教皇フランシスコは、大阪と高松の両教区を統合し、新たに大阪高松大司教区を設立した。また、教皇フランシスコは、現大阪大司教区大司教のトマス・アクィナス前田万葉枢機卿を新大司教区の初代大司教に任命した。

この度の発表は、新しい教区の設立であり、既存の大阪大司教区と高松司教区との合併ではありません。これから、それぞれの教区の担当者によって意見交換を重ねて、神様が新大司教区に求められていることを識別し、新体制を整えていきます。様々な面でご不安をおかけするかもしれませんが、新しい歩みの中でシノドス的な教会を築いていけるように進んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(大阪教区、お知らせより)

■八尾教会ミニバザー2023(11/12) 店舗募集!! (行事委員会)

*フリーマーケット形式とし、店舗代表者に出店希望届を提出いただきます。

今回は準備から当日販売までの担当者の負担を減らすため、バザーの提供品の募集、調理及び販売などの担当者募集、抽選会は行いません。

店舗募集期間 : 8/20(日)～10/1(日)ミサ後まで。
行事委員に提出してください。(次回評議会、10/1に出展可否を評議)



8月6日の平和旬間の集いに多くの方が参加してくださりありがとうございました。

今年ことしの平和旬間へいわじゆんかんの八尾教会や おきようかいのテーマは「20世紀せいぎの戦争せんそうのかたりべ」としました。二部構成にぶこうせいで前半ぜんはんは20世紀せいぎから現代げんたいに至るまで、どれだけ多くの戦争せんそうが起きているのかをスライドで見ました。後半こうはんは長崎ながさきで被爆ひばくされた池松アヤ子いけまつ あやこさんにお話はなしを聞く予定よていでしたが、体調たいちょうを悪くされ、当日とうじつ皆さんの前まへでお話はなししていただくことができませんでした。昨年さくねん、池松さんいけまつが、ご自身じしんの人生じんせいを語ったものを、池松さんのケアマネさんいけまつであった方が聞き取って冊子さつしを作られました。とても多くのことが語られ、原爆投下直後の苦勞くろうや戦後生きてきた苦勞くろうが記録きろくされていました。今回はその中から、原爆投下直後のお話を、私が代読だいてくさせていただきます。お母様かあさまのことお父様とうさまのことご兄弟きょうだいのこと、真っ直ぐな子どもの目からみた家族の様子かぞくが語られていました。



子どもたちは守られるべき存在まもであるにも関わらず、苦しい思いくろや悲しい思いおもをするのは、まず

子どもたちです。最後にチエ神父様しんぶさまよりお話しはなしがあったように、私わたしたちは被害者ひがいしゃでもあるが加害者かがいしゃでもある。今の社会いまの様子しゃかいをしっかりと見て、判断はんだんしていくことが、池松さんいけまつのような戦争せんそうの被害ひがいを受ける子どもたちこを作らないためにも大切たいせつだと思いました。今回こんかい、被爆ひばくの体験たいけんを伝えて下さった池松さんいけまつに感謝かんしゃし、被爆者ひばくしゃの方々のためにもかたがたにお祈りいのいたします。

しゃかいかつどういんかい
(社会活動委員会 R.E.)

■「被造物を大切に作る世界祈願日」教皇メッセージ

2023年9月1日

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

「正義と平和を大河のように」が、今年のエキュメニカル行事「被造物の季節」(訳注:日本のカトリック教会では「すべてのいのちを守るための月間」の名称を用いる)のテーマで、預言者アモスのことば、「正義を洪水のように、恵みのわざを大河のように、尽きることなく流れさせよ」(5・24)から着想を得たものです。

アモスが鮮やかに描くこの光景は、神が何を望んでおられるのかを物語っています。神は正義の支配を望んでおられます。その正義の支配は、わたしたち神の似姿として造られた子らのいのちにとって、肉体の維持に水が必要なと同様に不可欠なものです。この正義は必要な場所へ現れ出るべきもので、わたしたちを支えるものとなることなく、地下にとどまったままであったり、蒸発してしまったりする、水のようにあってはなりません。神が望むのは、一人ひとりが、それぞれの状況において正義の人となるよう努めること、神のおきてに従って生きるようつねに力を尽くして、いのちが十全に花開くようにすることです。わたしたちが何よりもまず神の国を求め(マタイ6・33参照)、神との、人類との、自然とのしかるべき関係を保つなら、正義と平和は、尽きることのない清水のように流れ出て、人類とすべての被造物を養うことができます。……

(カトリック中央協議会 H.P より一部抜粋)



意外と些細なことに拘るのですが、ローマ留学の時、クリスマスパーティーでグルテンフリーのチョコレートを作ってくれた方々がそのチョコレートに沿っていたメモを今も保管している。メモは勿論、食べ物が入っていた袋も丁寧に置いておく。何故かと考えてみたら、真心を込めて用意して下さった方への私なりの礼儀、つまり、感謝の表れあるいは、心に留めておく一つの方法なのだ。ローマから帰って来たのが二年前だし、ローマでの思い出の物が増えるわけでもないのに、紙箱に全部収まっているが、このように大事に保管してきた物も整理しなければならぬときが来るだろう。何かのきっかけで、つまり、住む場所を変えるとか、細々した物が多過ぎる気がしてきた時にはやむを得ず、片付けに臨むことになる。

今年のゴールデンウィークに13年ぶりに韓国の実家を訪れたが、私の使っていた部屋に確か、実家から出る前までは大事な物だったはずの本や思い出のこもった品々は、もう既に必要ではなくなっていた。そうだ。時間が、絶えず流れていく時間がある程度溜まると、それは時期と区切られ、もう前の時期の物に用はなくなってしまうのだ。その無用さにも関わらず、これは持っていたいなと思わせる物は余程の物でない限り、その殆どは年月の埃とともに、自分の記憶からも消えてしまう。そういえば、高校2年末の冬、学力テストが校内で行われたところ、優秀な成績を収めたので、賞プラークを貰ったことがある。私より、父の息子への期待を膨らませたのが恐らく、あの受賞のためだと推察している。大した失敗の経験を持たず、頭でっかちだった私にとっても、あの賞は決して小さくはない影響を与えたであろう。しかし、父のソウル大学じゃなければ、どこも一緒だという頑固さによる、大学入試前後の心の傷はともかく、何故か今もあの賞プラークは持っていたいと思っている。

17歳だった頃、自分が達成した成果として誇りと思う自分がある。もうちょっとで40年以上も前の出来事なのに、今も、当日のてれた気持ちが伝わってくる。当時のクラスメイトはそれぞれの人生を生きているだろうし、誰一人同じ人生を歩んでいる人はいないだろうが、もうとうの昔になくなってしまった当時の校舎の敷地を久しぶりに見て回ったが、思い出の引っかかりは何処にも残っていなかった。そうだ。時間とともに消えてしまったのだ。聖教皇ヨハネ・パウロ二世が訪問されたと言われる、母校の隣りの大邱大司教区司教館の境内にあるルルドの聖母堂の赤い煉瓦だけが、過ぎ去ってしまったあの時期を思い出してくれていた。それで、歳を取っていくんだなと感じてしまう。そういう自分に励ましのエールを送ってあげたくなる。何故なら、山あり谷ありの人生を、よくもここまでたどり着いているのだから。

皆さまへの、もっと大きい拍手は当然なこと、人生の後輩として、大先輩である皆さまに真心を込めて感謝と尊敬のお言葉を贈呈したい。

挫けずに生きておられて、ありがとうございます。
神様のお恵みが豊かにありますように！

